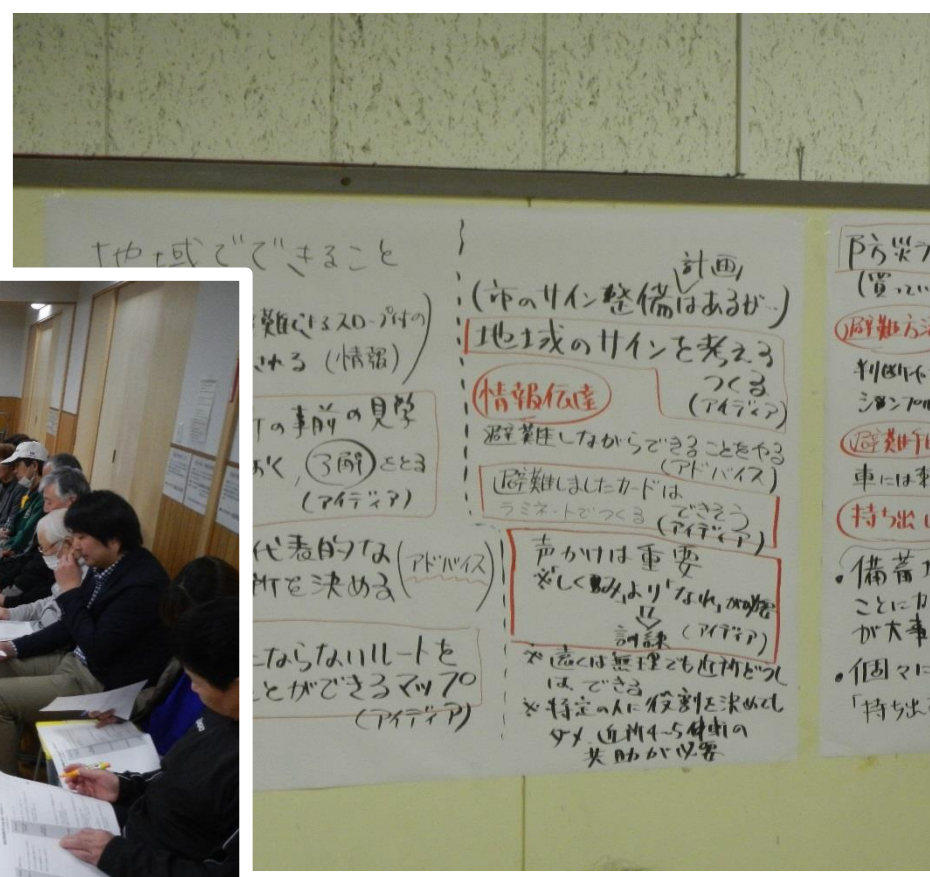


はじめよう！

地域ごとの津波避難計画づくり



石巻市



もくじ



Q

「地区津波避難計画」ってなんですか？ 1

「地区津波避難計画」がどのようなものか、どうしてこの計画が必要なのかなど、概要を記載しています。

Q

何を決めて、どのようなものをつくるのですか？ . 2

「地区津波避難計画」を作成するにあたって、年間の活動のおおまかなスケジュールと、どのようなことをするのかを記載しています。

Q

どのように進めるのですか？ 4

「地区津波避難計画」作成の手順をステップごとに記載しています。

Q

誰でもできますか？ 8

「地区津波避難計画」に取り組む上で大切なことについて、ポイントを記載しています。

Q

どのようなことに気をつけたらよいですか？ . . . 9

「地区津波避難計画」を作成するにあたって、活動の始め方、進め方のポイントを記載しています。



Q

「地区津波避難計画」ってなんですか？

A

地区を知っているみなさんが、自分たちで考える津波からの避難計画です

- 起こりうる津波に対して、住民の安全を確保するため、市では国や県の方針のもと、市全体としての「石巻市津波避難計画」を作成しました。
- 津波からの避難方法は、地域の細かな状況によって異なります。
- 地区をもっとも知っている住民のみなさんがよく話し合い、地区の実情に合った「地区津波避難計画」を作成することが重要です。

石巻市
津波避難
計画

石巻市津波避難計画では、津波避難に関する市全体の対策をまとめています。その中には、「市民の方々がより円滑な避難行動を行うためには、地域ごとの津波避難計画を策定する必要がある」こと、「地域の情報を最もよく知っている地域住民の参画を得て、地域個々に地区の実情にあわせた「地域ごとの津波避難計画」を作ること」が示されています。

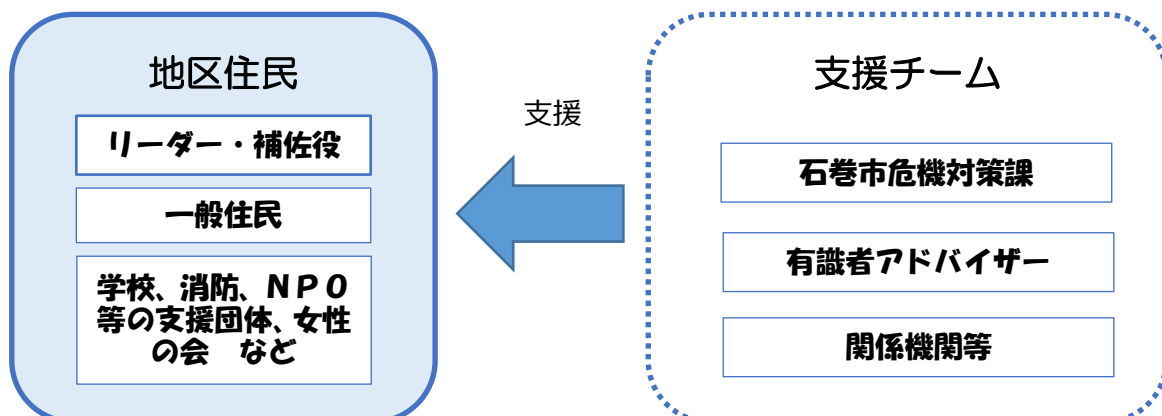


地域のみなさんが話し合っ
て、より具体的な「津波避難」を考
える



地区津波避難計画

- 計画づくりは、住民のみなさんが主役です。地区のリーダーを中心に、市とも連携をしながら活動を進めていきます。
- みなさんが慣れない部分は、専門家や関係機関などで構成する「支援チーム」が、お手伝いをすることが可能です。



Q

何を決めて、どのようなものをつくるのですか？

- 避難時に役立つ、地区の資源を記載した「地区現況マップ」、避難時の地区の課題その課題を解決するための「個別計画」を作成します。

活動の流れ

Start !

4月

6月

7~9月

申請

キックオフ

地区現況マップの作成

地区で計画の作成意向が固まったら市へ申請をし、活動が開始できる状況かどうか等を市と相談します。

- ・年間スケジュールの共有
 - ・参加者の意識合わせ・目標の共有
 - ・専門家による防災解説
 - ・ウォーミングアップ（資源の洗い出し等）
- などを行います。

地区を「見える化」する

きめること・できるもの



市が指定する避難場所以外に、避難できそうな場所がないか、避難時に危険な箇所はないかなどを話し合い、「**地区現況マップ**」を作成します。

A

津波避難に関する地区の課題と、それを解決する方法を決めます

題をまとめた「地区課題リスト」、



10月～11月

11月～1月

3月～

地区課題リストの作成

個別計画の作成

計画のみなおし

- | | |
|---|--|
| <p>1 原則</p> <ul style="list-style-type: none"> ・個人で避難開始の判断ができるようにする ・「自己責任」の原則を徹底する ・地震や津波の危険性を軽視しない ・避難場所を家族であらかじめ決めておく ・家族の在・不在に合わせた避難開始の判断方法を決めておく | <p>5 避難行動要支援者の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難行動要支援者用（高齢者、障がい者等）の避難を支援する体制（呼び掛け、車避難等）を整える ・避難行動要支援者用の避難場所・経路を設定する ・避難行動要支援者を支援する人の行動時間（避難時間）を定める |
| <p>2 具体的な避難方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内で避難を呼びかける体制を整備する ・橋の不在時に子どもが避難できるような体制を整える ・班単位で避難の助け合いをする | <p>6 車避難</p> <ul style="list-style-type: none"> ・決まる場所をあらかじめ把握しておく |
| <p>3 避難場所・経路の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新たなわかりやすい避難経路を確保する ・避難可能な場所を事前に把握しておく ・緊急時の避難場所として、地域のオフィスエリアや民家の2階を活用できるようにする ・エリアごとに避難する場所を分けておく ・危険箇所をあらかじめ把握しておく ・避難場所への最短経路を事前に把握しておく ・エリア・時間等・季節毎の避難経路と交通手段を定める | <p>7 備蓄</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域で備蓄を実施する（その更新、維持をする体制を整える） ・防備具を備える ・ガソリンを常に満タンに保つ |
| <p>4 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震発生後、津波発生の可能性に関する情報を収集できるようにする ・ハンドマイク等で、避難時に呼びかけを行う | <p>8 訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難先を身体に覚え込ませる ・避難方法別の訓練を実施する ・子どもの引き渡し訓練を実施する ・家庭や地域などで、訓練の重要性を意識づける ・参加者への動機づけ（参加者に物品提供等）を実施する |
| | <p>9 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常備薬を携帯する ・地下水が湧いている箇所を、緊急時に活用できるように整備する |

津波避難について課題を話し合い、「地区課題リスト」を作成します。

作成した計画の見直し・検証を行います。また、引き続き地区の課題について話し合いを続けて、計画を豊かなものにします。



課題やルールを洗い出す

地区課題リストの中から、投票などにより優先して取り組むべき課題を決めます。その後、優先課題を解決するために、取り組みを具体的に化した「個別計画」を作成します。

できることから話し合う

1-2 「自己責任」の原則を徹底する

話し合いをした日 平成 年 月 日 ()

話し合いで決めたこと

- ※ 2-1 町内で避難を呼びかける体制を整備する を参照
- ※ 3-2 避難可能な場所を事前に把握しておく を参照

今後進めていくこと

実施すべき項目	だれが	いつまでに

Q

どのように進めるのですか？

A

地図等を使いながら、ミーティングを重ねます

- 地区住民のみなさんが集まり、ミーティングを重ねながら、地区の現状を把握して目に見える形にします。

STEP 1

キックオフ・ミーティング

- ・ 初回のミーティングで、顔合わせ、意識合わせ、全体のスケジュール共有などを行います。

1



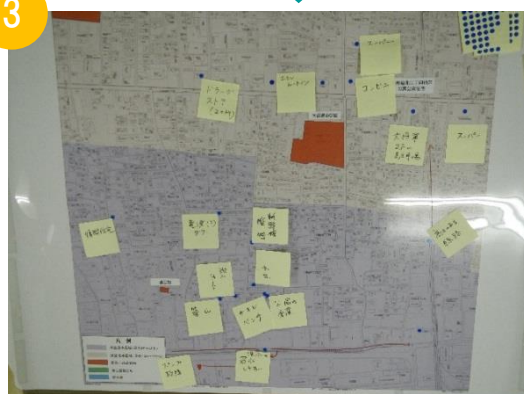
- ・ 地区のリーダーが主体となり、キックオフ・ミーティングを行います。
- ・ 参加者の意識合わせ、活動の趣旨説明、目標（最終的に作り上げるもの）の共有、集会のスケジュール共有などを行います。

2



- ・ 専門家による防災や津波の解説を行います。

3



- ・ ウォーミングアップとして、大判地図を使用して、地区の避難場所や資源の洗い出し、避難経路や避難方法などの課題を話し合います。

STEP2

地区現況マップの作成

- 地図を用いて地区の現状把握を行います。

1



- 大判印刷した住宅地図を用意して、地区の現状（施設の位置関係の確認、資源の豊かさ・乏しさなど）を話し合い、地図に書きこんでいきます。
- 市で指定する避難場所や津波避難ビルの他に、「避難に適した場所や建物がないか」、「避難の際に危険を感じる箇所がないか」「いざというときに役立つ資源（井戸や設備など）がないか」などを話し合います。
- 参加者が多い場合は、複数のグループに分かれて話し合いを行った後、グループごとに発表をしましょう。

2

- 話し合った内容は、次回ミーティングまでにまとめます。

STEP3

地区課題リストの作成

- 地区の津波避難における問題・課題を話し合います。

1



- 避難に関する問題・課題について、自由に意見を出し合います。
- 自助（自分でできること）、共助（住民どうして助け合うこと）を意識しながら、話し合いを行います。

2

- 出された問題・課題は、自助（自分でできること）、共助（住民どうして助け合うこと）、公助（他者の支援が必要なこと）に分類して整理します。

3

<p>1 原則</p> <ul style="list-style-type: none"> 個人で避難開始の判断ができるようにする 「自己責任」の原則を徹底する 地震や津波の危険性を軽減しない 避難場所を家で決めずあらかじめ決めておく 家族全員、子どもに合わせた避難開始の判断方法を決めておく 	<p>5 避難行動要支援者の対策</p> <ul style="list-style-type: none"> 避難行動要支援者（高齢者、障がい者等）の避難を支援する体制（呼び出し、手配等）を整える 避難行動要支援者用の避難所・経路を設定する 避難行動要支援者を支援する人の行動時間（避難時間）を定める
<p>2 具体的な避難方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 取次で避難を呼びかける体制を整える 階の不在時に子どもが避難できるような体制を整える 災害直後、子どもに合わせた避難開始の判断方法を決めておく 	<p>6 車避難</p> <ul style="list-style-type: none"> 沈没する場所をあらかじめ把握しておく
<p>3 避難場所・経路の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> 新たなわりやすい避難経路を確保する 避難可能な場所を事前に把握しておく 緊急時の避難場所として、道路のガスマスエアリアや複数の2階を応用できるようにする エリアごとに避難する場所を分けておく 避難場所をあらかじめ把握しておく 避難場所への最短経路を事前に把握しておく エリア・時間帯・季節等の避難経路と交通手段を定める 	<p>7 簡易</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域で簡易を支援する（その実施、維持をする体制を整える） 避難用具を整える ガソリンを常に満タンに保つ
<p>4 情報収集</p> <ul style="list-style-type: none"> 地震発生後、津波発生の可能性に関する情報を収集できるようにする ハンドマイク等で、避難時に呼びかけを行う 	<p>8 訓練</p> <ul style="list-style-type: none"> 安全な避難先を事前に覚え込ませる 避難方法別の訓練を実施する 子どもを引き渡し訓練を実施する 家庭や地域などで、訓練の重要性を徹底させる 参加者への動機づけ（参加者に物品提供等）を実施する
	<p>9 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 準備を整える 地下水が湧いている箇所を、緊急時に応用できるように整備する

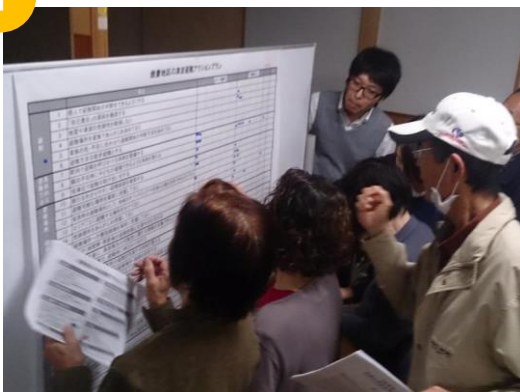
- 整理した意見は、解決に向けて検討していく「地区課題リスト」として、まとめます。

STEP4

個別計画の作成

- 優先して取り組む課題の決定と、課題を解決するための個別計画を作成します。

1



- 地区課題リストのすべてを解決するには、たくさんの時間と労力がかかります。
- そのため、優先して取り組む課題を、投票や話し合いなどにより、いくつか決定します。

2

- 優先して取り組む課題に対し、解決策や行動のルールにまとめます。

3



- 個別計画は、全体ミーティングとは別に、小グループ（4～5人程度）で案を考えることが効果的です。
- メンバーは、住民から立候補があることが望ましいですが、立候補が無い場合、地区リーダーから依頼をします。



4

• グループで話し合いの場を設け、話し合った内容を取りまとめます。



5



- とりまとめた個別計画の案を、全体ミーティングで、参加者全員に対して発表をします。
- 参加者全員で意見交換を行います。
- 「誰が、いつ、どのように」行動するのか、できるだけ具体的に話し合い、案をより良いものにします。



6

• 話し合いの結果を踏まえて、「話し合いで決めたこと」、「今後進めていくこと」を整理し、個別計画とします。

●具体的な取組方法

2-1 町内で課題を呼びかける体制を確立する

話し合いをした日 平成27年12月18日（金）

※話し合いで決めたこと※

1. 町民の課題発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

2. 町民から、どのような課題でも町民参加型で課題を解決する体制を構築する。

3. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

4. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

5. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

6. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

※今後進めていくこと※

実施予定日	内容	担当者	進捗状況
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	

※メモ※

話し合いの経過を踏まえて、話し合いで決めたこと、今後進めていくことを整理し、個別計画とします。

●具体的な取組方法

2-2 籍の不在中に子どもが遊べる体制を確立する

話し合いをした日 平成27年11月30日（月）

※話し合いで決めたこと※

1. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

2. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

3. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

4. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

5. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

6. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

※今後進めていくこと※

実施予定日	内容	担当者	進捗状況
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	

※メモ※

話し合いの経過を踏まえて、話し合いで決めたこと、今後進めていくことを整理し、個別計画とします。

●具体的な取組方法

3-2 遊歩可能な場所を事前に把握しておく

話し合いをした日 平成27年10月27日（水）

※話し合いで決めたこと※

1. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

2. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

3. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

4. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

5. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

6. 町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。

※今後進めていくこと※

実施予定日	内容	担当者	進捗状況
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	
	町民から、課題の発見、課題の解決に向けた体制を町民参加型で構築する。	町民	

※メモ※

話し合いの経過を踏まえて、話し合いで決めたこと、今後進めていくことを整理し、個別計画とします。

Q**誰でもできますか？****A****やる気があればどなたでもできます**

- いくつかの留意点がありますが、誰でも地区津波避難計画を作成できます。

活動を行うにあたっての留意点

1 地区にリーダーや補佐役はいますか？

- ・リーダーとは、町内会長や自主防災組織の長などです。
- ・地区にとって大切な活動であるという思いを持ち、住民にも広く参加を募るなどのリーダーシップをとって頂くことで、スムーズに活動を進めることができます。
- ・リーダーを支えて補佐の役割をしてくださる方も、不可欠です。

2 なるべく多くの方が賛同して、スタートすることができますか？

- ・リーダーや、ひと握りの住民の思いだけでは、計画づくりは成功しません。
- ・声かけや説明を行って、なるべく多くの賛同を得てスタートすることが大切です。

3 住民同士の日頃のお付き合いの状況はいかがですか？

- ・地域活動の実施状況、住民参加の状況はいかがですか？
- ・日頃から住民同士のお付き合いがあるほど、スムーズな活動が期待できます。

4 活動を支援してくれる団体、学校、企業等がありますか？

- ・支援団体の参加や支援は必須ではありませんが、活動を進めるにあたって心強い存在です。

Q

どのようなことに気が付いたらよいですか？

A

できるだけ多くの方が目標を共有して参加できることが重要です

- 活動を始めるには、地区内で計画作成の合意がとれていること、より多くの参加者を集めることが重要です。

具体的な活動の流れとポイント

活動の申し込み

活動の案内

キックオフ

地区現況マップ作成

地区課題リスト作成

優先課題の決定

小グループで
計画案を作成

計画案の検討・まとめ

報告会

Point!

地区内で、計画作成の合意がとれていることが重要！

⇒地区内で、活動の趣旨と目標（何をつくるか）を十分に共有したうえでスタートしましょう

Point!

継続して参加者を集めることが大事！

⇒参加者には、事前に活動の趣旨を十分伝えたくて集まりましょう

⇒地区のみなさんが参加しやすい曜日や時間帯を選んでスケジュールを組みましょう

⇒地区の行事と組み合わせることも効果的です
⇒父母層の参加を促すために、「託児スペース」を設置することも効果的です

⇒参加のハードルを下げるためにも、ミーティングは短時間（1時間程度）で行いましょう

Point!

計画づくりの主役は住民のみなさんです！

⇒防災にはハード面の整備も重要ですが、地区のみなさんが主役となって、自分でできること、地域でできることを考えていくことが大切です

⇒話し合いは自由に意見を出しあって行うことが大事ですが、ほかの人の意見を否定してはいけません

⇒できるだけ多くの方が活動に参加し、みんなで課題を解決することが大事です

Point!

活動に参加できなかった地区の方々にも情報提供を！

⇒決定した地区の取り組み内容は、活動に参加できなかった地域の方々とも共有しましょう

はじめよう！地域ごとの津波避難計画づくり
平成28年3月発行



発行元：石巻市 総務部 危機対策課

〒986-8501 宮城県石巻市穀町14番1号
TEL 0225-95-1111 / FAX 0225-94-8681

